



後藤滋樹

ごとう・しげき：早稲田大学 理工学部 情報学科教授。
APNG 議長、APAN 副議長などアジア太平洋のインター
ネット界で活躍している。
goto@goto.info.waseda.ac.jp

サイバージャヤ



マレーシアの新都市

マレーシアの国家プロジェクトとしてマルチメディアス
ーパーコリドール(回廊)が有名である。この計画に沿
って2つの新都市が建設されている。1つはサイバージャヤ(Cyber Jaya)、もう1つはプトラジャヤ(Putra Jaya)である。クアラルンプールの新国際空港KLIA(Kuala Lumpur International Airport)もこの計画に含まれ、すでに開港している。

Jayaという語は辞書で引くと「成功」を意味する。場所の名前にも好んで付けられるという。Cyberは正に現代的な「サイバー」である。これに対してPutraという語を辞書で引くと、Puteraと同義でプリンス(王子)の意味とある。マレーシアの友人に確認すると、この王子というのは、イスラムのスルタン(サルタン)に関係するらしい。そういえば、私の宿泊しているホテルはJalan Putraつまりプトラ通りに面している。

サイバージャヤの話は以前から聞いていたのだが、今回初めて訪問する機会を得た。実は、4年前にも見に行こうとしたことがある。当時はまだ一帯が建設中であつた。クアラルンプールを訪問したときに、あそこはジープのような車に乗らないと行けないと言われたのである。

曲線状の道路

今回は、国際会議の参加者が夕方大型バスに同乗してサイバージャヤに向かった。目的地に近づくと、目にするものすべてが新しい。たとえば、道路の側にあるヤシの並木、立体交差の道路、点在する真新しい建物などだ。

4年前に見た完成予想図を思い出した。日本で言えば筑波のようなところである。大きな違いは筑波では道路が直線状に長く伸びているのに対して、サイバージャヤでは道路が曲線状である。ほとんどの道路が緩いカーブを描いている。それが立体交差しているので精円を重ねたような構造になる。

点在する建物のなかには、新設されたマルチメディア大学もあるはずだ。ただし今回訪問した時刻は夕方、うす暗くなっている。残念ながら道路の際にある案内板が読めない。結局、目的地のサイバージャヤ(ホテル)へ脇目もふらずに直行するだけの行程となった。

ダンスが先か演説が先か

多くの参加者にとって、サイバージャヤでの催物は、普通の国際会議における夕食より先印象に残るものであつた。丸いテーブルがたくさん並んでいる。前の方の席には主要な人物が座る。ただし席に着いても食事が運ばれてこない。これは偉い人の挨拶が済まないし食べられないのだと覚悟を決めた。すると、いきなり音楽が始まり、ダンサーが現れて踊り出した。

私と一緒に日本から参加した尾内理紀夫氏(電通大教授)が言う、「後藤さん、ちょっと変ですねえ。マレーシアの女性は肌を出さないはずなのに、露出してますね」。私が答えて「そういえば蒸し暑い気候でも、女性は長袖という感じの服装が多いはずですよ」。尾内氏「この夕食の主催者はマレーシア政府の関係機関ですか」。私「くわしい関係は聞いていないけど、少なくとも公的な機関でしょう」。尾内氏「それならば肌を露出しないイスラムの教えを守るはずなのにどうしてでしょうね。ところで、マイクを持っている中央のダンサーが、私たちはセクシーなんかグループと名乗ったけど、女声というには低音でしたね」。続けて尾内氏「それにダンサーの背が全員高い。あれは男ですよ。きっと」

異国の文化を楽しむ

この尾内予想はマレーシアの友人の話によって裏付けられた。それを聞いた参加者は一様に驚いた。単なるダンスと思って見ていたら、意外なところに真実があつた。

サイバージャヤからの帰路、バスはクアラルンプールの中心街を通過した。ガイド役の男性が説明する。「KLタワーも、世界一高い建物であるペトロナス・ツインタワーも、イスラム様式で5層で構成されています」。これは言われるまで知らなかった。毎日ホテルの窓から眺めていたのに。

バスを降りてホテルの部屋に戻る。今さらながら部屋の天井を見上げると、当然そこには三角形にKIBLATと書いたマークがある。メッカの方角を示す印だ。途端に異国情緒が漂う。これがマレーシアなのだ。

Illustration: Harada Kazuo



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp